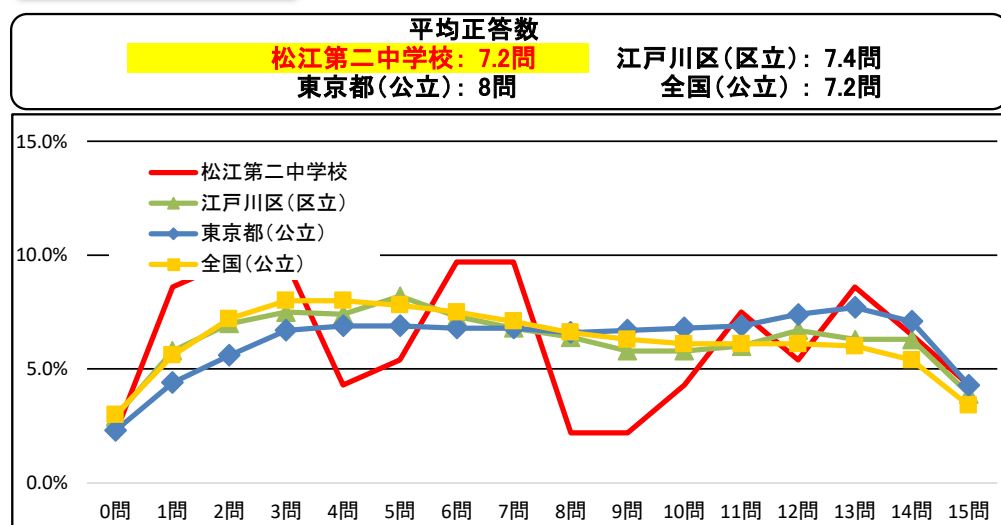


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【数学】松江第二中学校

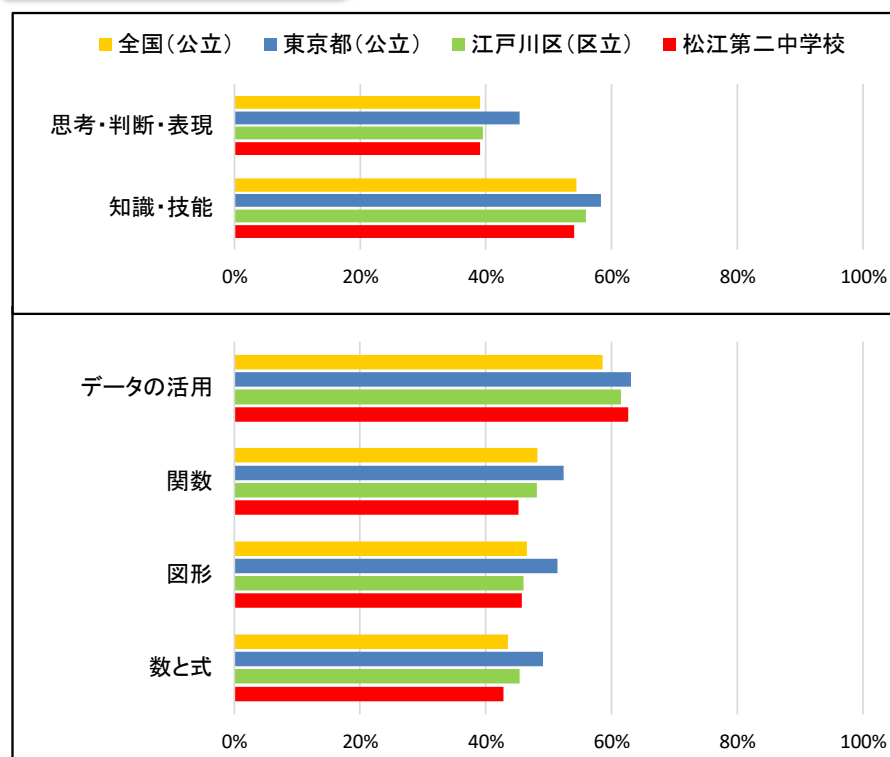
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

松江第二中学校	48%
江戸川区(区立)	49%
東京都(公立)	53%
全国(公立)	48.3%
都との差(ポイント)	-5.0

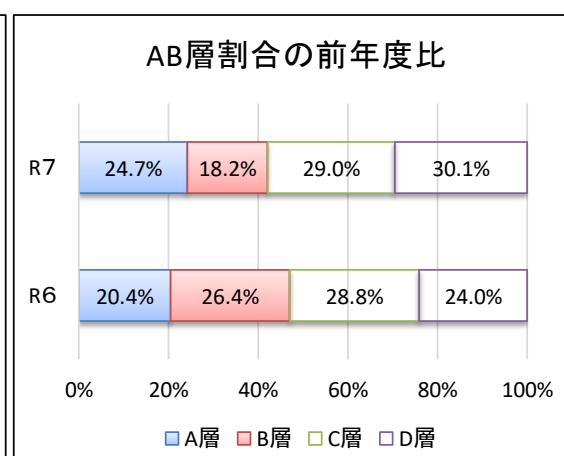
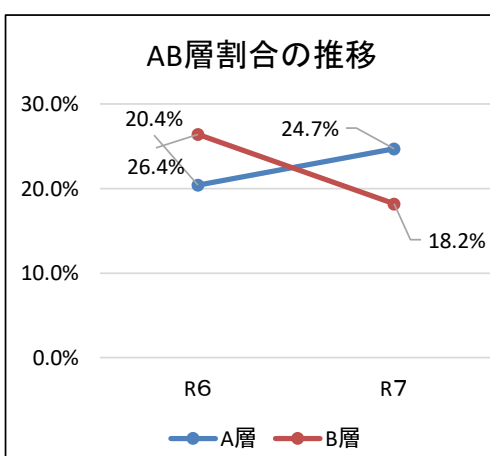
「領域別」の結果



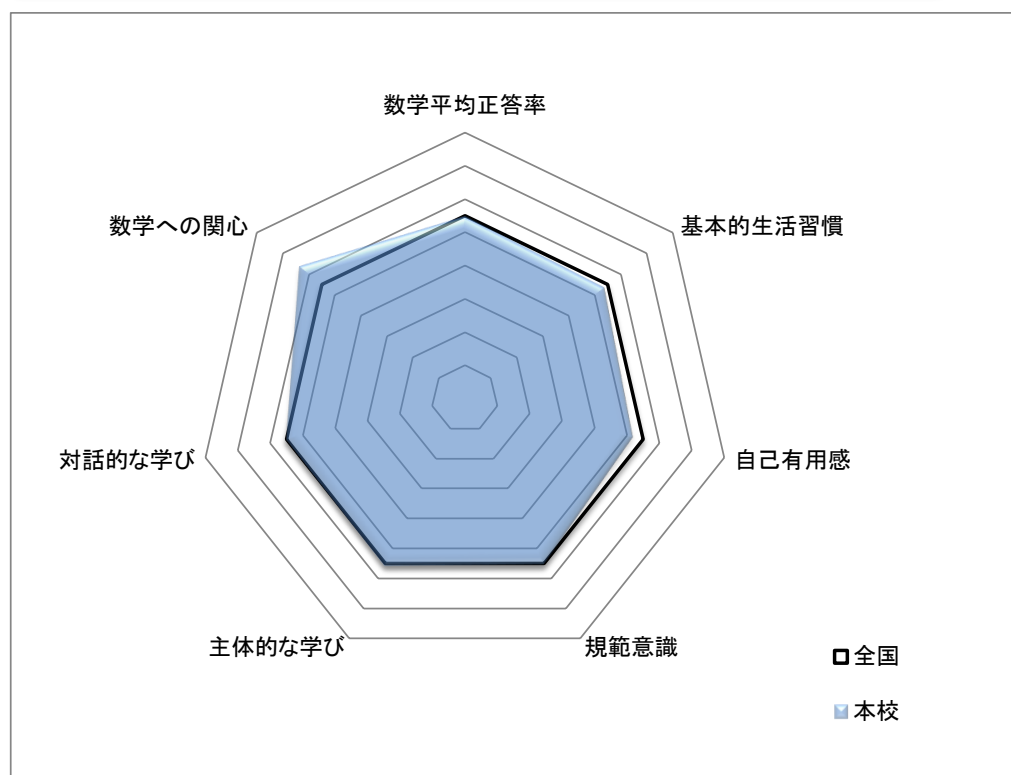
四 分 位 に お け る 割 合 (都 全 体 の 四 分 位 に よ る)

数 学	上位 ← → 下位			
	A層 12～15問	B層 8～11問	C層 4～7問	D層 0～3問
松江第二中学校	24.7%	18.2%	29.0%	30.1%
江戸川区(区立)	23.2%	24.0%	29.6%	23.2%
東京都(公立)	26.5%	27.0%	27.5%	19.0%
全国(公立)	20.9%	25.1%	30.2%	23.8%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



各 領 域 に お け る 、 全 国 平 均 正 答 率 及 び 、 全 国 の 肯 定 的 回 答 合 計 値 を 基 準 と し た 場 合 の 、 本 校 の 様 子 。



《チャートの特徴》

普段の数学の授業改善、さらには習熟度に分けた授業を展開し、それぞれの先生がそれぞれの習熟度に合わせて工夫した授業を行っているため、数学に関する興味関心が非常に高い。また学び合いや発表活動を多く取り入れ、生徒が評価しあうような学習活動に力を入れているため、主体的な学びに関するポイントも全国平均を上回っている。

《家庭・地域への働きかけ》

本校独自の放課後補習活動「サイレントスタディ」では近隣の高校の先生にも参加いただき、高校入試に関連して、生徒の質問に個別に対応し、知識・技能を高めると同時に、入試を攻略する実践力も養っている。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

A層の割合は昨年度よりも大きく向上させることができた。普段の授業における基礎的な知識・技能の習得に向けた小テストや繰り返し復習する課題に力を入れた成果である。さらにデータ分析等の応用的な内容理解に関する指導を授業内に工夫して入れた結果でもある。

一方B層の割合が昨年度より減少し、C層とD層の割合が増えてしまっている。学力に格差が広がっていると入れる。現在放課後補習など数学が苦手な生徒に関する補填的学習に力を入れるが、より一層個別指導に力を入れて、学習の格差が是正できるよう学習改善に努める。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

昨年度、校内研修において「学力向上」をテーマに研修グループを作成して「課題別研修」を行った。「ICT教材の活用法」や「発問における工夫と学力向上」など、グループごとに小テーマを設定してグループで外部研修等の情報を共有して、自身の授業で検証等を行い、校内研修で発表会を行った。様々なグループの発表内容を多くの教員が昨年度から今年度にかけて実践している。それによる授業改善が今回のA層を高める結果につながっていると感じる。

・基礎学力の保障

毎回授業開始10分間による基礎計算プリントを実施し、ほぼ毎日計算学習を行っている。実施したプリントはファイリングし、積み重ねが見てわかるように工夫している。また、各学年三者面談期間などを利用し、計算コンテストを行って基礎学力定着に向けて粘り強く指導している。

・学習習慣の確立

全学年家庭学習ノートを実施し、無理のないペースで毎日の継続した学習を目指した取り組みを行っている。また、授業での宿題だけでなく、定期的な問題集の提出をすることで授業以外での学習をする仕組みをつくっている。

・AB層の育成

習熟度別少人数授業の特性を最大限に活かし、授業での「できた」、「わかった」という成就感、達成感もてるような授業を取り組み、より一層生徒の学習意欲を高めていく。また、発展的な学習として、高校入試問題に取り組むことで、基礎知識・技能の定着だけでなく、応用する実践力を高めている。また、教え合い活動を実施し、お互いに高め合える環境をつくっている。